



宣誓!! 我々選手一同は...



ジャンケン、ボン

翔ぶ歓声、光る汗

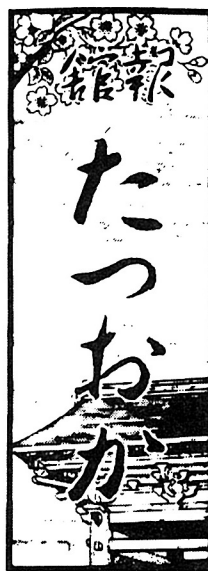
竜丘市民運動会

去る十一月三日文化の日に恒例の竜丘地区市民運動会が、竜丘小学校に於いて開催されました。今年、「ウルトラクイズ in 竜丘」、「ゲートボールダーツ」等の新種目が加わり、また従来の種目内容も多々工夫が凝らされ、秋晴れの一日、地区民の盛大な歓声が響きわたりました。優勝旗を手にしたのが十一年ぶりに桐林地区。二位から四位迄は実に一点差という手に汗握る大接戦となり声がかれんばかりの応援合戦が続ききました。

当日は、さすがに晴れの特別日だけあって、ぬける様な秋空のもとに、多くの区民が集い盛大に行なわれました。開会式に引き続き、すがすがしい朝の空気の中で全員でラジオ体操を行ない、最初の分館対抗種目である「モデルリレー」とはいつていきました。

最近では、各分館ごと競技練習や応援練習をしている為、採点種目に対する意気込みが感じられた反面、役員的心情とは別に選手が集まらず苦慮する場面が随所にみられました。男女各十名の選手が出場する綱引きは、見ている方も思わず力がはいる好試合が続きましたが、リーグ戦で行なう為、さすがに最後は綱にぶらさがっている選手もみられました。午前中最後の種目「八百メートルリレー」を終え屋敷となりました。午後一番に行なわれた明星学園生の仮装劇は、年々趣向をこらし素晴らしいものでした。又、園生の一生懸命演ずる姿に心をうたれました。

今回新しい競技として「ウルトラクイズ in 竜丘」が登場しました。これは竜丘にちなんだクイズを出題し、参加者はマルバツで答えるといった簡単な競技です。その単純さが受けたのか、はたまた目新しさが良かったのか、グラウンドには八割以上の人が押しかけ、残っているのは大会関係者だけといった大変な盛り上がり模様でした。ちなみに出題されたクイズを二つ掲げてみると、「竜丘の人口は



発行所
飯田市竜丘公民館
編集人
竜丘公民館広報委員会
印刷所
龍共印刷株式会社
上郷町黒田22-5353

人口 6,297 人
男子 3,030 人
女子 3,267 人
世帯数 1,756 戸
(1月末現在)

境内に響く笑いと拍手

桐林秋祭り芸能祭

去る十月十五日、桐林八とまどいが見られました。幡社で、秋祭り芸能祭が盛大に行なわれました。毎年行なわれていた桐林の文化祭を、八幡社の秋祭りに合わせ行なう事で、昔ながらの区民総出の祭りを創り上げようと計画されました。今年のはじめの事だっために、区民にささかの

順位も決まり閉会式となりました。天候にも恵まれ、とても良い運動会となりましたが、ただひとつ残念に思うのは、聖火リレーの時応援が少ないことです。広報活動を活発に利用し区民の意識を高め、グラウンドに行けない人も沿道で応援する事で、地区民皆々の運動会、地域ぐるみで盛り上げる運動会に出来れば素晴らしい事だと思えます。

総合成績表

順位	地区	得点
1	桐林	46
2	時又科	38
3	駄野原	37
4	長野原	36
5	上川路	21

終わってみれば、桐林分館が実に十一年ぶりに優勝旗を手にする事になりました。桐林の皆さんは、特に美味しいお酒が飲めた事と、又選手、役員、皆さん大変ご苦労様でした。結果は次の通りです。

分が一気に高まりました。子供みこしに続き、秋祭りのメイン？芸能発表では、各常会工夫をこらした出し物がされました。踊り・人形劇・ラインダンス・七福神・社交ダンス・詩吟など、常会ごとに出した物は、日頃見知っている区民が行なっているだけに、掛け声が飛んだり、おひねりが飛んだり、見る人を楽しませてくれました。又、幾日も夜集まって練習をした成果が良く表われ、境内に笑いと拍手の音が響いていました。常会の出し物の合い間に、はカラオケの発表が入り、そうしたプログラムの組み合わせにも工夫が見られ、飽きのこない構成となっていました。

四十数年ぶりの秋祭り芸能祭という中で、一番心配されたのが参加者(見物人)です。せ、かくの祭りも「かんこ鳥」が鳴いていては失敗に終わってしまいました。子供みこしで始まり、芸能発表、カラオケで盛り上げ、花火で閉めた秋祭りは、忙し過ぎる世相の中、秋の一日笑いと歓声で、地区民の心を一つにしました。

十一月、公民館の大きな事業である運動会と文化祭が終わり、残っているのは公民館の役員がほとんど。役員の方々が早くから準備をはじめられ、成功の内に終わりました。

しかし、これらの事業は本当に私達地区民の間に根ざしているでしょうか。運動会にしてみれば、自分が体育部から依頼を受けた種目のある時間だけ参加している人はいなかったでしょうか。閉会式の様子を何年か見てきましたが、年次リレーが終わり、片付けが終わるとほとんどの区民が帰ってしまい、残っているのは公民館の役員がほとんど。役員の方々が早くから準備をはじめられ、成功の内に終わりました。

グループ紹介

「あんばら」のクリーンセンター往復(約三キロ)や、鈴岡公園入口までの往復(約五キロ)など、その日によって走るコースを決め、グラウンドだけでなく外のコースに出て、景色をながめながら楽しく走っています。必ず練習に出るといふ様な規則は何もなく、都合のつく人達が集まる人、初めてマラソンをする人、とさまざまありますが、走る事が楽しみな人達が集まっています。現在男性十名、女性五名、十代から四十代の人達が、健康維持の為、自己記録更新の為にトレーニングに、はりきっています。練習は毎週日曜日の朝七時、小学校に集まります。軽くグラウンドを走り、桐林

暁のランナーズ

「あんばら」のマラソンチーム



一緒に走ってみませんか

加と形は様々ですが、それぞれが完走を目標とし、タイム短縮をねらう人、歩かずに走りぬこうとする人と頑張ります。走り終えた後の快感は何とも言えません。皆で、出かけるだけでも楽しいものです。休日はずっと寝ていたのですが、少し早起き

文化とは、どういう意味なのでしょう。一度辞書などを引いてみて下さい。ある辞書には「学問・芸術・宗教・化学など、人間の生活を向上させていく上で作り出されたもの」という文章で書かれていました。つまり、日々の活動が積み上げられ、続けられている事が文化といえるのであって、文化祭というのはその過程を多くの地域の方々に見てもらえる場であると思います。このところ展示や模擬店が主流になっていると思いますが、この点も今後の課題だと思えます。

このところ地域離れや、地域に無感心な人が増えていますが、これらの公民館活動がそれらの人々を取り込みながら、より良い地域作りの活動として輪が広がってゆくことを望みます。

広がりを見せた文化祭

—力作ぞろいの各コーナー—

去る十一月十一、十二日の両日、竜丘小学校に於いて竜丘地区文化祭が開催されました。マンネリ化が課題となっていた文化祭ですが、今年は、新企画の子供広場や、古墳と出土品の見学会等の動的な催しが増え、例年になく活気ある祭典となりました。

地区民の日頃の活動の成果を見ようと、昨年の五割増の入場者で賑わいを見せた文化祭の目玉は、新企画の子供広場と古墳と出土品の見学会、そして我家のひと品、私の作品コーナーでした。

子供広場は関係者の熱意と工夫が随所に見られましたが、思い思いのメッセージを託して、大空に放たれた風船は、六通の便りを乗せて戻って来ませんでした。見知らずの人との温かい交流が生まれることでしょう。

竜丘ギネスには紙飛行機飛ばし・長靴飛ばし・縄飛び競争・梅干の種飛ばし・目隠し片足立ち競争と楽しい種目が一杯で、子供達が目を輝かせて参加していました。特に梅干の種をホホをふくらませて飛ばしている姿や、縄飛び競争で女の子が、リズムカルに飛び跳ねている姿が印象的でした。又、父母も子供と一緒に楽しんでいた。

古墳と出土品の見学会は、文化の香り高い竜丘を堪能できた企画で、約三十余名の参加者がありました。又、発展著しい地区内の工業を知る工業展は好評でしたが、今後、地区全体の広がりを期待したいと思えます。

各種団体コーナーは例年に増して充実した内容で、それぞれの地道な活動がしのばれました。特に長野原分館の生活改善意識調査は力作でした。又、保健指導委員会の癌の写真には、ショックを受けタバコをやめようと思った人がいたのでは。竜丘の貴重な財産である

古墳とギフチョウのコーナーは、充実した展示で、「古墳を考える会」と「昆虫友の会」の意気込みが感じられました。地区民の生活史と思いが込められた民俗資料館の公開は、日頃目に触れ得ないだけに大変有意義で、ぜひもっと一般公開の機会を増やして欲しいものです。

上川路区の愛好家の皆さんが精魂込めて育てあげた菊や、盆栽が文化祭に花を添えました。パズルコーナーは昨年に増して大好評で、品切れが続出しましたが、もっと量を確保して欲しいものです。

新企画の古墳見学会、子供広場は、文化祭に動的な要素や、祭りの要素を与え、それが文化祭全体に賑わいをもたらした。成功させた要因で、又、長野原分館のように、より主体的に文化祭に参加することが必要であり、個人出品のウェー



風船に夢をのせて (子供広場)

トを増やしていくことが、たものにさせることになる文化祭をより活き活きとし、

「やっぱり厚かった」 全国の壁

全国青年祭女子ソフト出場

去る十一月十日から十三日まで、神宮外苑国立競技場日本青年館を中心に、第三十八回、全国青年大会が開かれました。

この大会は、広く全国の勤労青年を対象に開かれるもので、スポーツ・文化部門十九種目に、全国の青年達が競い合いました。

我竜丘青年会では、昨年夏開かれた、県大会で見事優勝した女子ソフトボールと、優秀な成績を納めた陸上競技において、県代表の権利を得る事が出来ました。

県・全国大会共、厳しい出場制限があり、一昨年優勝経験があるソフトボールでは、ほとんどのメンバーが青年会に入っていないメンバーばかりでしたが、そこは同じ年代のまとまりの良さで、チームワークも良く、県大会直後より、仕事が終わった夜間や、時には早朝練習を男子会員と一緒に頑張り、長い間の練習の成果を充分発揮出来なかつた様でした。

行進終了後一回戦。その相手は、佐賀県武雄市連合青年団チーム。試合前の練習では、緊張のせいかポロポロ。相手チームの守備はガッチリ。

『ウーン。これでは...』

と思った通り、相手はピッチャーを中心に、走攻守と竜丘チームを上回り、結果は十三対〇の五回コールド負けでした。

参加した塚平多栄さんは、『相手チームの迫力に負けた。力不足でした。』

又、岡村美好さんは『全国の壁は厚かったです。』

『全国の壁は厚かったです。』

『長い間の練習の成果を充分発揮出来なかつた様でした。』

竜丘バレーボールリーグ戦 十周年を迎えて

会長 塩沢 美智子

竜丘バレーボールリーグ戦は、昭和五十五年に発足以来今年で満十年を迎えます。公民館役員の皆様、指導員等の関係者の皆様によりこの様な立派なスポーツ団体を作っていたいただきました。そのお骨折りは元より諸先輩方の努力と熱意、そして地域の皆様のご理解とご協力により、この十周年を迎える事ができたのだと思います。

発足以来十チーム、約百五十人の会員が、主に四月から十月の毎週金曜日に、夜八時よりリーグ戦に親しまれ、誰にでもできる気軽なスポーツであると思えます。どのチームもメンバー募集中ですので、気楽に声をかけていただき大勢の方に参加していただきたいと思えます。

今年、十周年という事で記念の新聞を発行し、チーム毎に記念撮影もいたしました。これからもケガには充分注意して、尚一層会員の皆様、地域の皆様にご理解ご協力いただき、竜丘バレーボールリーグ戦が二十年、三十年と続けられます様祈願致します。

ソフト結果

十一月二十三日、桐林運動広場に於いて、竜丘地区夜間ソフトボール連盟の発足十周年を記念するトーナメント大会が行われました。

当日は、天候に恵まれ、現在の連盟加盟十チーム中八チーム、約八十名の参加を得て、四チームで二ブロックに分かれ、それぞれトーナメントで熱戦が繰り広げられました。

開会式では、発足以来連盟の要約としてお骨折りをいただいた歴代の会長さんに感謝状と記念品も贈呈され、十年の節目を契機に、今後増々ソフトボール人口の拡大と連盟の発展を目指し、全会員が一丸となって努力していくことが確認されました。

試合結果は次のとおり、Aブロック優勝は時又ウェスタンス、二位はねうし会、三位はシブホース、Bブロック優勝は青年会、二位は長野原、三位は久保尻

青年の主張

八月六日の朝、青年会の仲間皆で折った千羽鶴と共に長崎へと向いました。

原水禁世界大会は、平和行進から始まり、開会総会、分科会、ピースウェーブコンサート、閉会総会と、三日間に渡り行われました。

その中で私なりに感じた事、心に残っているものは、まず、誰かもわからない黒焦げの人々があちこちに横たわる焼け跡、全身火傷で苦しむ人々の当時の無残な様子をリアルに伝える原爆資料館のパネルの数々、

「私は皆さんと一緒に平和活動をする為に治療を受け頑張ります。」と被爆者の感さされました。

さらに、閉会総会で、被爆者達の思いの真実を伝えていく事だと改めて実感させられました。

平和への願いを込めて

原田 弥美

八月六日の朝、青年会の仲間皆で折った千羽鶴と共に長崎へと向いました。

「早く被爆者援護法が出来る様に頑張ってくださいよ。」と自分が被爆二世だと語り、悲しみ、怒りを聞き、被爆者達の体験した苦しみ、私も何か力になりたいと思わずにはいられません。

平和の為に私達に出来る事は何かを考えさせられました。それは、アピール署名であり、平和行進であって、その中で一人でも多くの人々に四十四年前に起った事実と被爆者達の思いの真実を伝えていく事だと改めて実感させられました。

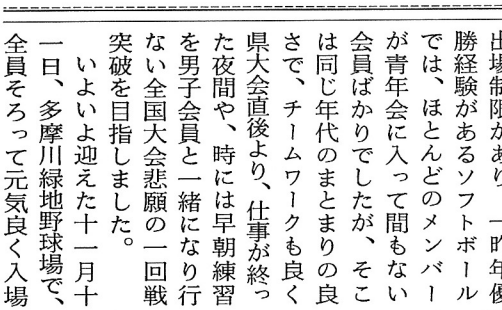


その輪が広がればいつか必ず平和を手に入れる事が出来るかもしれない。平和の為に活動している仲間が世界中に大勢いる事を実感させられ、もっと平和に近づきたいと感

じて学んでいきたいと感

じさせられた大会でした。

最後に、大会参加にあたり協力して下さった地区の皆様には大変ありがとうございました。



若さで勝負、竜丘の女性パワー



若さで勝負、竜丘の女性パワー

若さで勝負、竜丘の女性パワー